

(国語科)

## 自分の考えをもち、思いを伝え合う子どもを育てる

一言語活動を通して－

大阪市立佃南小学校 藤永大・城市剛史・金山奈央

### 1. はじめに

本校では、平成24年度より、読み取ったことをもとに自分の考えを表現できる子どもを育てようと国語科に焦点をあて、実践研究を進めてきた。一昨年度より「単元を貫く言語活動」に取り組んできた。昨年度は「自分の考えをもち、思いを表現できる子どもを育てる－伝え合う活動を通して－」を研究主題として、児童がペアになって意見を交換し合ったり、学級で発表したりする活動を中心に取り組んできた。そして、本年度は、「自分の考えをもち、思いを伝え合う子どもを育てる。一言語活動を通して－」を研究主題とした。単元を貫く言語活動に取り組みながら、学年に応じた表現力を育成する研究を深めていこうと考えた。

### 2. 研究の内容

自分の考えを持ち、思いを表現できる子どもを育てるために、次のような視点から研究に取り組んだ。

#### ア 児童が考えをもつための支援

- ・一人学びの実践
- ・ノート指導
- ・ヒントカードを活用

#### イ 話し合い活動の充実

- ・主発問の精選

一問一答の学習ではなく、一問多答を目指し、発問を精選していく。児童が深く思考し、自分で判断し、自分の考えを伝え合う学習にしていく。

- ・話し合う内容の明確化

授業の中で行われる話し合い活動のテーマを明確にして、話し合い活動を児童が主体的に進められるようにする。

- ・意見の根拠を示すことの徹底

児童が意見を発表するときには、考えたことの根拠を叙述から示すように指導する。

- ・意見交流の方法の工夫

ペアから班、全体交流という流れを考え、小グループからは司会をたて意見交流を行っていく。また、ハンドサインで自分の意見を必ず表明させる。

#### ウ 単元を貫く言語活動の実践

- 1年・・・わたしの『サラダでげんき』をつくろう
- 2年・・・登場人物にお手紙を書く
- 3年・・・はたらく犬について調べ、リーフレットにまとめる
- 4年・・・ごんぎつねを、『ごん日記』にまとめ、交流し合う
- 5年・・・中心人物の気持ちが変容する本を読んで、新聞を作る
- 6年・・・好きな本を友だちに紹介するリーフレットを作る

#### エ 言語環境の整備

- ・詩などの音読や暗唱を行い発表の場を設ける。
- ・児童集会で詩の朗読や群読の発表会をし、自信をもって発表する力をつける。  
各学年の掲示板を利用し、詩を毎月掲示する。また、プリントも配布し児童の語彙を増やしたり、様々な表現法にふれたりする機会とする。

#### オ 読書活動の充実

- ・読書タイムを実施する。  
朝の学習の時間に、全校一斉で読書を行う時間を設定する。
- ・読書目標を設定する。  
意欲的に読書活動に取り組めるように、読書量の目標を設定する。一年間に低学年は 50 冊以上、中学年は 80 冊以上、高学年 100 冊以上を目指して取り組む。

### 3. 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

##### ア. 児童が考えをもつための支援

- ・児童が主体的に学習することができ、自分なりの考えをもち、話し合い活動にいかすことができた。
- ・教材文と向き合うことができ、あらすじや心情などを自分なりに読み取ることができた。

##### イ. 話し合い活動の充実

- ・発問を精選したことにより、活発な話し合い活動ができた。
- ・挿絵をもとに話し合い活動を行うことで、文章に苦手意識をもつ児童も積極的に参加することができた。

##### ウ. 単元を貫く言語活動の実践

- ・第 I 次で学習課題を提示することで、児童は見通しをもって言語活動に取り組むことができた。

##### エ. 言語環境の整備

- ・詩を毎月新しく掲示したり配布したりすることで、多くの文や表現、言語に触れることができた。

##### オ. 読書活動の充実

- ・読書に親しむ機会が増え、児童の読書量が増えてきた。

#### (2) 今後の課題

- 「一人学び」やワークシートの内容をより精選し工夫する。

●友だちの意見を比較して、見出した相違点や気づいたよさをいかす全体交流の方法を探る。

●児童の考えを揺さぶったり、多様な考えを引き出したりするような発問、支援の研究を行う。

●伝え合う力を書く力につなげていく取り組みを行う。

●国語科で培った言語力を他の教科や学校生活でいかせるよう工夫する。